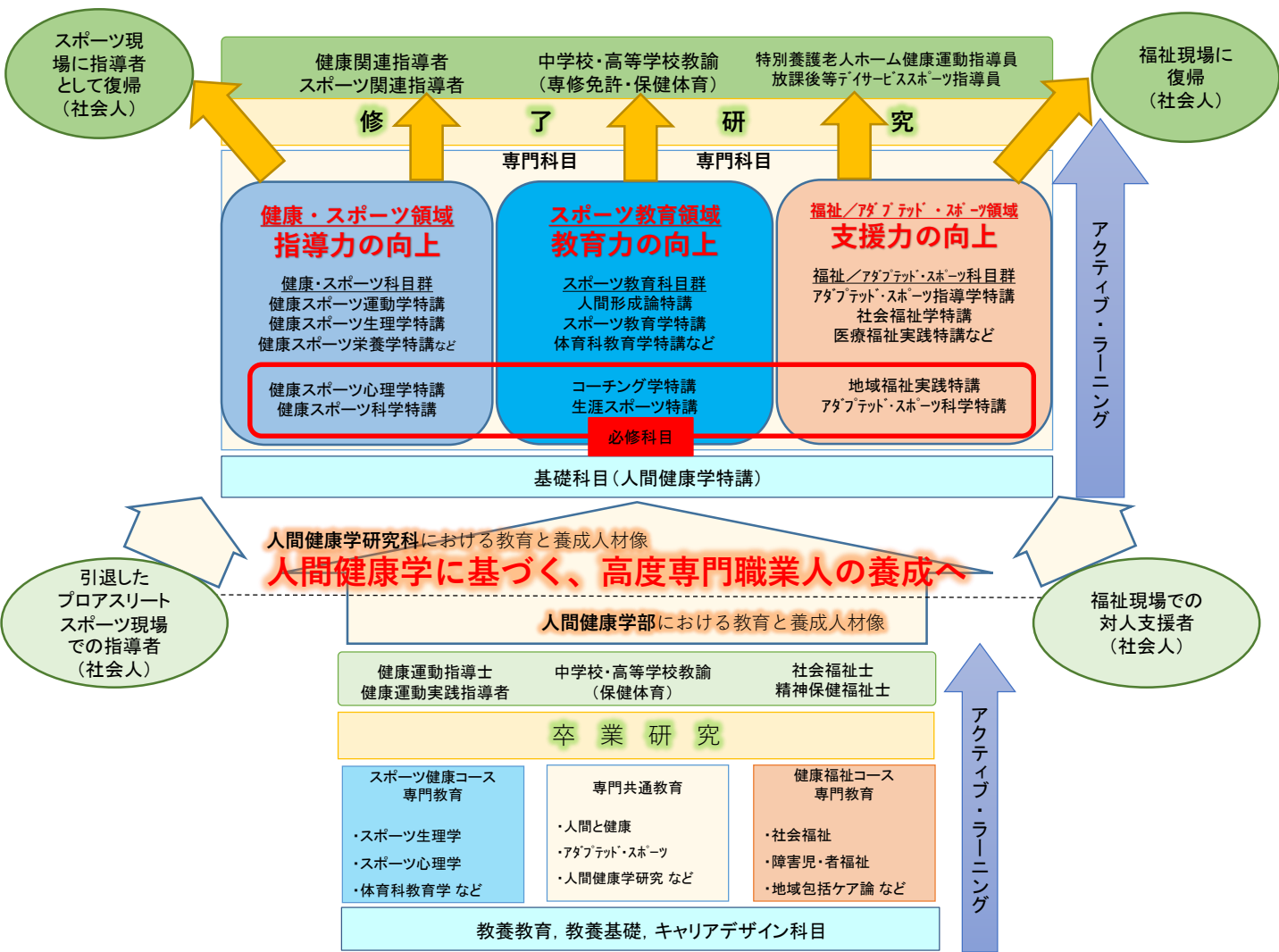
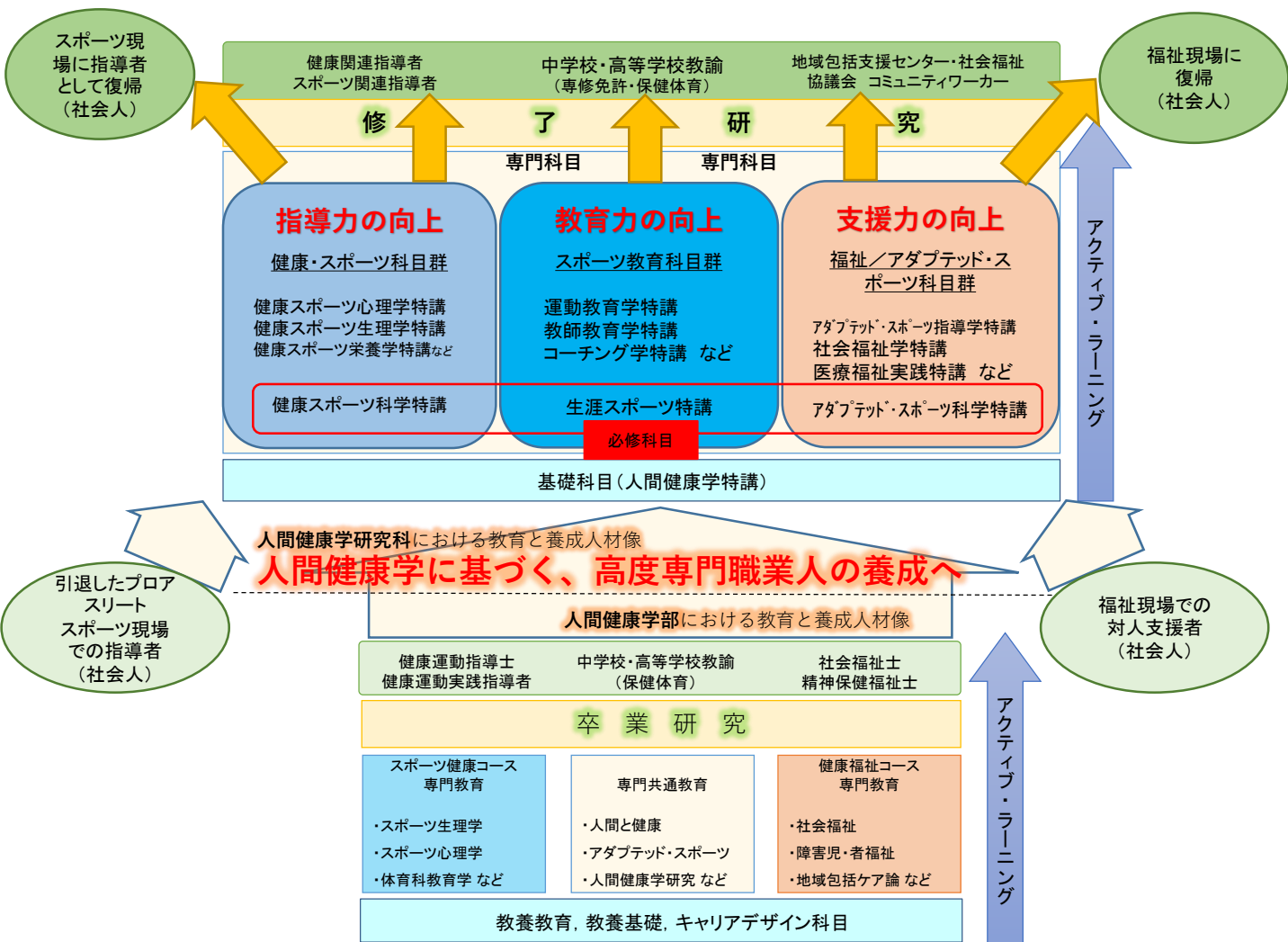


審査意見への対応を記載した書類（6月）資料

資料目次

資料1	概念図	p 2
資料2	シラバス「体育科教育学特講」	p 4
資料3	カリキュラムマップ	p 6
資料4	履修モデル	p 8
資料5	時間割	p 16
資料6	シラバス「人間健康学特講」	p 17
資料7	シラバス「アダプテッド・スポーツ科学特講」	p 19
資料8	シラバス「アダプテッド・スポーツ指導学特講」	p 21
資料9	「入学から修了までのスケジュール」	p 23
資料10	「専任教員の年齢構成・学位保有状況」 「定年を超えて採用する教員について」	p 25
資料11-1	学部生アンケート調査（2回目）	p 27
資料11-2	学部生アンケート調査結果（2回目）	p 33





体育科教育学特講 The Pedagogy of Physical Education	前田 一篤		1年	後期	坂
			2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本講義では、昨今の学校教育における歴史や教育的意義を確認し、その教材の検討および体育教師の養成・採用・研修の段階を通した力量形成について、実践的・理論的な両面から検討する。教育の最前線に立つ教師の力量形成について、文部科学省は「学び続ける教師像」の確立を求めている。これは、教職生活全体を通じて、教師それぞれが自らの実践的指導力の向上を図るとともに、めまぐるしく変化する社会状況の中で、教育の断続的な刷新が必要であることを示している。そこで本講義では、教師が探究力を持ち学び続けるために必要な要素や方法について、ディスカッションやプレゼンテーションなどを交えた双方向な展開で検討していく。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(2)に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーション(本授業の意義と概要)	本講義の内容及び授業の進め方について説明し、その意義について理解する。	授業の流れを理解し、 体育科教育学 について理解する。	配布資料
2	歴史的に見る 体育科教育学	体育科教育学 という学問の歴史の変遷について、教科教育学などの解説を交えて理解する。	体育科教育学 の成り立ちについて理解する。	配布資料
3	体育科教育学 の研究動向①:国内編	日本における 体育科教育 の特質と課題を、先行研究の分析からまとめていく。	日本国内における 体育科教育学 に関する研究について理解する。	配布資料
4	体育科教育学 の研究動向②:国外編	諸外国における 体育科教育 の特質と課題を、先行研究の分析からまとめていく。	諸外国における 体育科教育学 に関する研究について理解する。	配布資料
5	体育科教育 の事例研究①:日本における 体育科教育 カリキュラムの事例の選出	履修者が自ら学修してきた 体育科教育 に関する内容を振り返り、整理・分析を行う。	これまでの経験と重ねて、 体育科教育 の内容について理解する。	配布資料
6	体育科教育 の事例研究②:校内研修フィールドワーク	各学校における校内研修で実施されている 体育科教育 の事例について整理して、分析を行う。	各学校における 体育科教育 に巻く取り組みについて理解する。	配布資料
7	体育科教育 の事例研究③:校外研修フィールドワーク	各学校の外で実施される 体育科教育 に関連する取り組みの事例について整理して、分析を行う。	学校以外で取り組まれている 体育科教育 について知る。	配布資料
8	体育科教育 の検討①:テーマの検討	履修者が自ら 体育科教育 に関連する研修を実施する事を目標として、そのプログラムのねらいについて検討する。	自らの 体育科教育 に関する考えを基に、プログラムのねらいについてディスカッションする。	配布資料
9	体育科教育 の検討②:プログラムの検討	前時にまとめた 体育科教育 に関連する研修のねらいに基づいて、実際に行うプログラムについて考案する。	ねらいに即したプログラム内容について意見を出し合い、まとめる。	配布資料
10	体育科教育 の分析研究③:プログラムの実施	履修者自身で考案したプログラムを実際に行う。	役割を分担して円滑にプログラムを実施する。	配布資料
11	体育科教育 の分析研究④:プログラムの評価	実施したプログラムを振り返り、その改善点について検討する。	それぞれの役割ごとの反省を出し合い、その成果と改善点について共有する。	配布資料
12	体育科教育 の分析研究⑤:成果報告	体育科教育 に関連する研修のねらいの設定、プログラムの考案、実施およびその評価と改善についてのプレゼンテーションを行う。	役割分担をして、円滑にプレゼンテーションを行う。	配布資料
13	体育科教育者 についての研究	体育科教育者 に関する資料を収集し、現代社会における 体育科教育 の役割と現状の課題についてディスカッションする。	体育科教育者 の役割と課題について理解する。	配布資料
14	新しい 体育科教育者 の養成・育成に関する研究	近年実施されている 体育科教育 の実践家を養成・育成する取り組みに関する資料を収集し、その内容についてディスカッションする。	体育科教育 の養成・育成に関する内容について理解する。	配布資料
15	本授業のまとめ(総括と今後の 体育科教育 の課題)	授業全体を振り返り、履修者自身の 体育科教育 についての考えをまとめ、ディスカッションする。	それぞれが授業を通して学んだことを共有する。	配布資料
16	なし	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
体育科教育 を実践する立場から、 学校教育 における 保健体育科 を中心にその意義や方略について理解を深め、自らの考えを述べることでできるようになる。また、実践を通しての経験を基に、今後の活動に活かすことができるようになる。	1) 資料収集及び整理 30% 2) プレゼンテーション及びフィールドワーク40% 3) ディスカッション 30%	資料は電子ファイルにして共有する。共有された資料については事前に目を通して内容を理解しておくこと。また、授業中に配布した資料はファイリングし、復習に活用すること。自習の総時間は50時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

授業内で適宜指示する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

教師教育学特講 The Pedagogy of Teacher Education	前田 一篤	1年	後期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本講義では、教師の養成・採用・研修の段階を通じた力量形成（教師教育）について、実践的・理論的な両面から検討する。教育の最前線に立つ教師の力量形成について、文部科学省は「学び続ける教師像」の確立を求めている。これは、教職生活全体を通じて、教師それぞれが自らの実践的指導力の向上を図るとともに、めまぐるしく変化する社会状況の中で、教育の断続的な刷新が必要であることを示している。また、養成段階においてもそれは同様である。しかし、昨今の教育を取り巻く諸問題が多様化している。そこで本講義では、教師が探究力を持ち学び続けるために必要な要素や方法について、ディスカッションやプレゼンテーションなどを交えた双方向な展開で検討していく。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(2)に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーション（本授業の意義と概要）	本講義の内容及び授業の進め方について説明し、その意義について理解する。	授業の流れを理解し、教師教育学について理解する。	配布資料
2	歴史的に見る教師教育学	教科教育学という学問の歴史の変遷について、教科教育学などの解説を交えて理解する。	教師教育学の成り立ちについて理解する。	配布資料
3	教師教育学の研究動向①：国内編	日本における教師教育の特質と課題を、先行研究の分析からまとめていく。	日本国内における教師教育学に関する研究について理解する。	配布資料
4	教師教育学の研究動向②：国外編	諸外国における教師教育の特質と課題を、先行研究の分析からまとめていく。	諸外国における教師教育学に関する研究について理解する。	配布資料
5	教師教育の事例研究①：日本における教師教育カリキュラムの事例の選出	履修者が自ら学修してきた教師教育に関する内容を振り返り、整理・分析を行う。	これまでの経験と重ねて、教師教育の内容について理解する。	配布資料
6	教師教育の事例研究②：校内研修フィールドワーク	各学校における校内研修として実施されている教師教育の事例について整理して、分析を行う。	各学校における教師教育に巻く取り組みについて理解する。	配布資料
7	教師教育の事例研究③：校外研修フィールドワーク	各学校の外で実施されている教師教育に関連する取り組みの事例について整理して、分析を行う。	学校以外の場で取り組まれている教師教育について知る。	配布資料
8	教師教育の検討①：テーマの検討	履修者が自ら教師教育に関連する取り組みを実施する事を目標として、そのプログラムのねらいについて検討する。	自らの教師教育に関する考えを基に、プログラムのねらいについてディスカッションする。	配布資料
9	教師教育の検討②：プログラムの検討	前時にまとめた教師教育に関連する取り組みのねらいに基づいて、実際に行うプログラムについて考案する。	ねらいに即したプログラム内容について意見を出し合い、まとめる。	配布資料
10	教師教育の分析研究③：プログラムの実施	履修者自身で考案したプログラムを実際に行う。	役割を分担して円滑にプログラムを実施する。	配布資料
11	教師教育の分析研究④：プログラムの評価	実施したプログラムを振り返り、その改善点について検討する。	それぞれの役割ごとの反省を出し合い、その成果と改善点について共有する。	配布資料
12	教師教育の分析研究⑤：成果報告	教師教育に関連する取り組みのねらいの設定、プログラムの考案、実施およびその評価と改善についてのプレゼンテーションを行う。	役割分担をして、円滑にプレゼンテーションを行う。	配布資料
13	教師教育者についての研究	教師教育者に関する資料を収集し、その役割と現状における課題についてディスカッションする。	教師教育者の役割と課題について理解する。	配布資料
14	新しい教師教育者の養成・育成に関する研究	近年実施されている教師教育者を養成・育成する取り組みに関する資料を収集し、その内容についてディスカッションする。	教師教育の養成・育成に関する内容について理解する。	配布資料
15	本授業のまとめ（総括と今後の教師教育の課題）	授業全体を振り返り、履修者自身の教師教育についての考えをまとめ、ディスカッションする。	それぞれが授業を通して学んだことを共有する。	配布資料
16	なし	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
教育者を養成・育成する立場からの教師教育学について保健体育科を中心に理解を深め、その意義と課題について自らの考えを述べるようになる。また、実践を通しての経験を基に、今後の活動に活かすことができるようになる。	1) 資料収集及び整理 30% 2) プレゼンテーション及びフィールドワーク40% 3) ディスカッション 30%	資料は電子ファイルにして共有する。共有された資料については事前に目を通して内容を理解しておくこと。また、授業中に配布した資料はファイリングし、復習に活用すること。自習の総時間は50時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

授業内で適宜指示する。

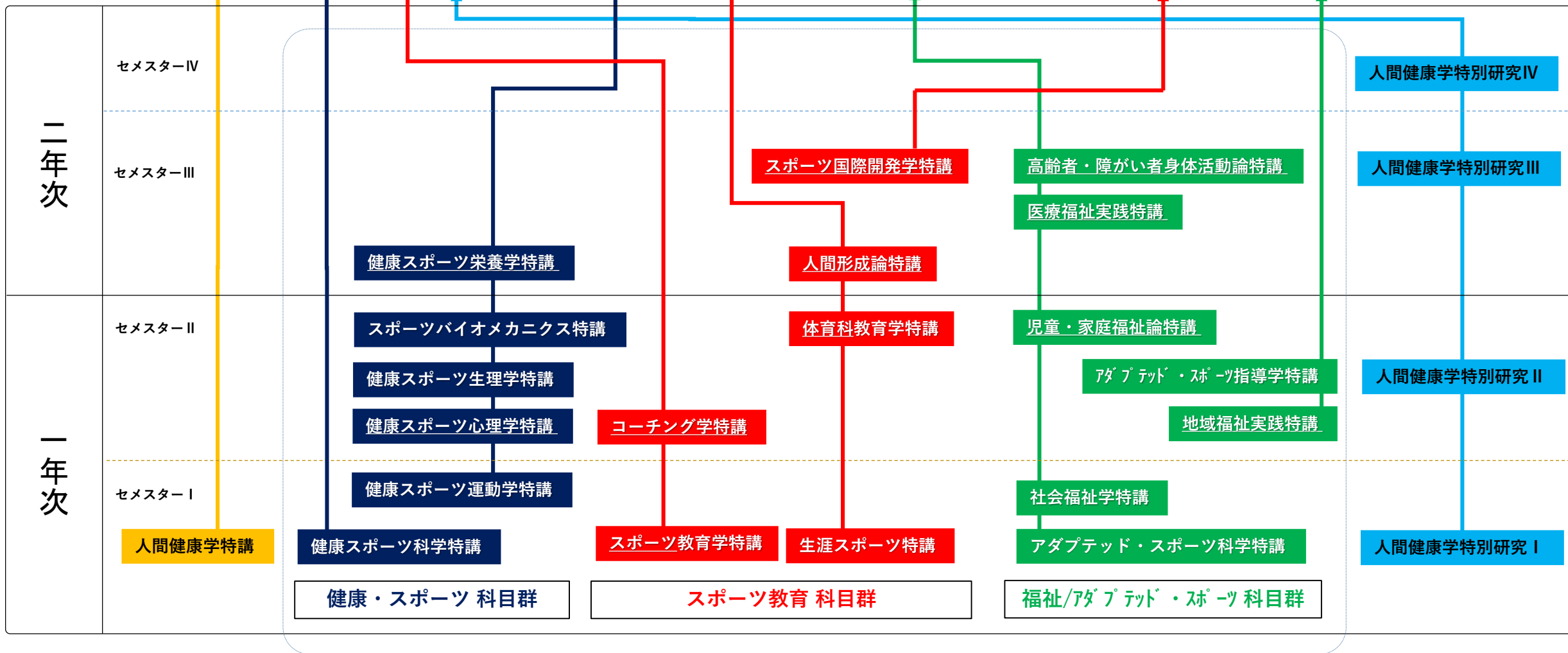
7. その他(履修の要件等)

特になし

DP 1 自ら探究心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる。

DP 2 健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。

DP 3 地域社会のスポーツ振興及び健康づくりに寄与し、かつ、国内外を問わず積極的に活動の場を広げる意欲を有する。



基礎科目

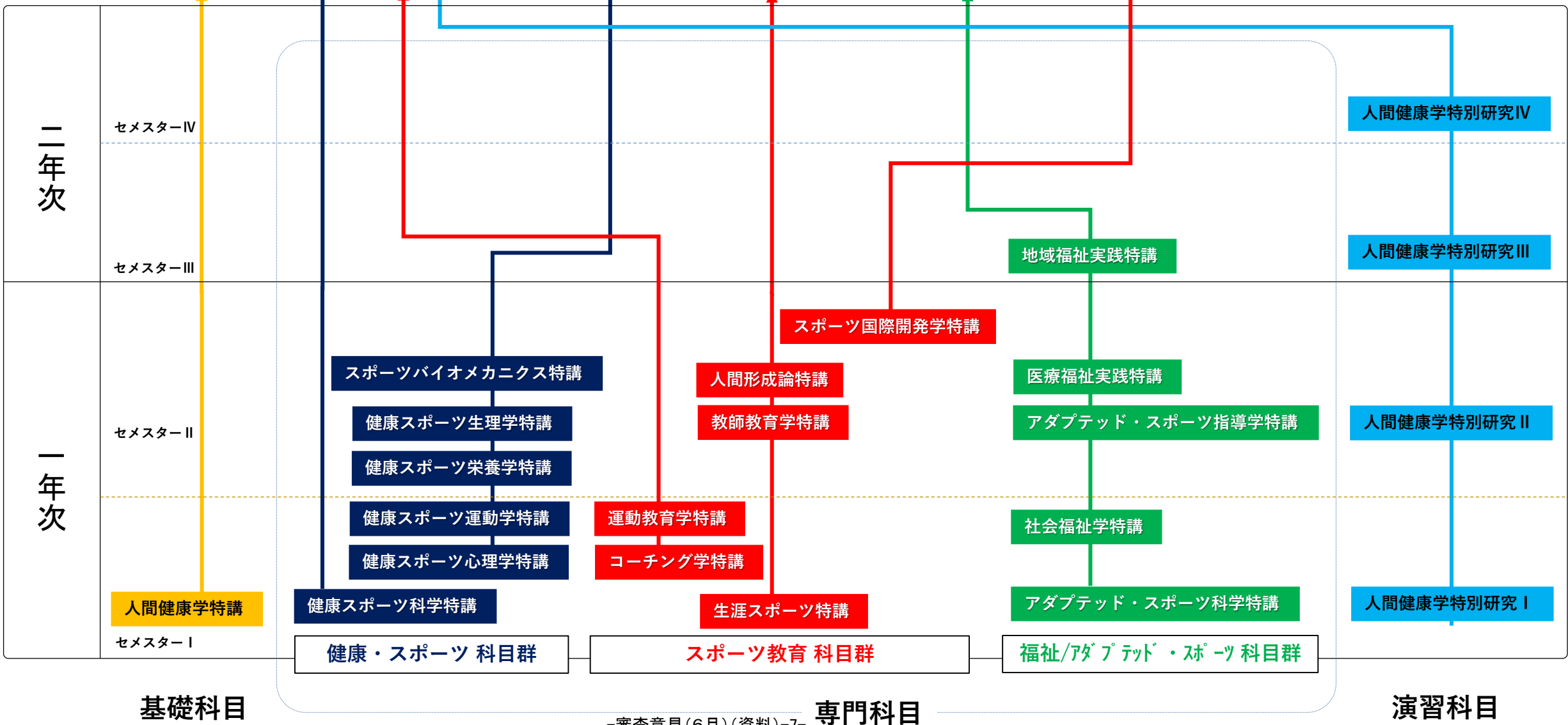
専門科目

演習科目

DP 1 自ら探究心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる。

DP 2 健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。

DP 3 地域社会のスポーツ振興及び健康づくりに寄与し、かつ、国内外を問わず積極的に活動の場を広げる意欲を有する。



全科目

※網掛:必修

※下線:専修免許指定科目

	1年				2年			
	前期		後期		前期		後期	
	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	
基礎科目	人間健康学特講	2						
	基礎科目小計	2	0	0	0			
専門科目	健康スポーツ科学特講	2	健康スポーツ心理学特講	2	健康スポーツ栄養学特講	2		
	健康スポーツ運動学特講	2	健康スポーツ生理学特講	2				
			スポーツバイオメカニクス特講	2				
	生涯スポーツ特講	2	コーチング学特講	2	人間形成論特講	2		
	スポーツ教育学特講	2	体育科教育学特講	2	スポーツ国際開発学特講	2		
	アダプテッド・スポーツ科学特講	2	アダプテッド・スポーツ指導学特講	2				
	社会福祉学特講	2	地域福祉実践特講	2	医療福祉実践特講	2		
			児童・家庭福祉論特講	2	高齢者・障がい者身体活動論特講	2		
専門科目小計	12	16	8	0				
演習科目	人間健康学特別研究Ⅰ	2	人間健康学特別研究Ⅱ	2	人間健康学特別研究Ⅲ	2	人間健康学特別研究Ⅳ	2
演習科目小計	2	2	2	2				
単位小計	16	18	10	2				

基礎科目単位計 2

専門科目単位計 36

演習科目単位計 8

単位総計 46

修了要件単位総計 30

履修モデル(1):健康・スポーツモデル

※網掛:必修

※下線:専修免許指定科目

	1年				2年			
	前期		後期		前期		後期	
	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	
基礎科目	人間健康学特講	2						
	基礎科目小計	2		0		0		0
専門科目	健康スポーツ科学特講	2	健康スポーツ心理学特講	2	健康スポーツ栄養学特講	2		
	健康スポーツ運動学特講	2	健康スポーツ生理学特講	2				
			スポーツバイオメカニクス特講	2				
	生涯スポーツ特講	2	コーチング学特講	2				
	アダプテッド・スポーツ科学特講	2	地域福祉実践特講	2				
	社会福祉学特講	2						
	専門科目小計	10		8		2		0
演習科目	人間健康学特別研究Ⅰ	2	人間健康学特別研究Ⅱ	2	人間健康学特別研究Ⅲ	2	人間健康学特別研究Ⅳ	2
	演習科目小計	2		2		2		2
	単位小計	14		10		4		2

基礎科目単位計

専門科目単位計

演習科目単位計

単位総計

修了要件単位総計

履修モデル(2):スポーツ教育モデル

※網掛:必修

※下線:専修免許指定科目

	1年				2年			
	前期		後期		前期		後期	
	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	
基礎科目	人間健康学特講	2						
	基礎科目小計	2	0	0	0	0	0	
専門科目	健康スポーツ科学特講	2	健康スポーツ心理学特講	2				
	健康スポーツ運動学特講	2	健康スポーツ生理学特講	2				
	生涯スポーツ特講	2	コーチング学特講	2	人間形成論特講	2		
	スポーツ教育学特講	2	体育科教育学特講	2	スポーツ国際開発学特講	2		
	アダプテッド・スポーツ科学特講	2	地域福祉実践特講	2				
	社会福祉学特講	2	アダプテッド・スポーツ指導学特講	2				
	専門科目小計	12	10	4	0	0		
演習科目	人間健康学特別研究Ⅰ	2	人間健康学特別研究Ⅱ	2	人間健康学特別研究Ⅲ	2	人間健康学特別研究Ⅳ	2
	演習科目小計	2	2	2	2	2		
	単位小計	16	12	6	2	2		

基礎科目単位計 2

専門科目単位計 26

演習科目単位計 8

単位総計 36

修了要件単位総計 30

履修モデル(3):地域健康支援モデル

※網掛:必修

※下線:専修免許指定科目

		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
		単位	単位	単位	単位	
基礎科目	人間健康学特講	2				
基礎科目小計		2	0	0	0	
専門科目	健康スポーツ科学特講	2	健康スポーツ心理学特講	2		
	健康スポーツ運動学特講	2	健康スポーツ生理学特講	2		
	生涯スポーツ特講	2	コーチング学特講	2		
	アダプテッド・スポーツ科学特講	2	地域福祉実践特講	2	医療福祉実践特講	2
	社会福祉学特講	2	アダプテッド・スポーツ指導学特講	2	高齢者・障がい者身体活動論特講	2
			児童・家庭福祉論特講	2		
専門科目小計		10	10	4	0	
演習科目	人間健康学特別研究Ⅰ	2	人間健康学特別研究Ⅱ	2	人間健康学特別研究Ⅲ	2
					人間健康学特別研究Ⅳ	2
演習科目小計		2	2	2	2	
単位小計		14	12	6	2	

基礎科目単位計

専門科目単位計

演習科目単位計

単位総計

修了要件単位総計

人間健康学研究科人間健康学専攻
履修モデル

設置の趣旨 資料4 旧

全科目

※網掛:必修

※下線:専修免許指定科目

	1年				2年			
	前期		後期		前期		後期	
	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	
基礎科目	人間健康学特講	2						
	基礎科目小計	2	0	0	0			
専門科目	健康スポーツ科学特講	2	健康スポーツ生理学特講	2				
	健康スポーツ運動学特講	2	スポーツバイオメカニクス特講	2				
	健康スポーツ心理学特講	2	健康スポーツ栄養学特講	2				
	生涯スポーツ特講	2	人間形成論特講	2				
	コーチング学特講	2	スポーツ国際開発学特講	2				
	運動教育学特講	2	教師教育学特講	2				
	アダプテッド・スポーツ科学特講	2	アダプテッド・スポーツ指導学特講	2				
	社会福祉学特講	2	医療福祉実践特講	2	地域福祉実践特講	2		
専門科目小計	16	16	2	0				
演習科目	人間健康学特別研究Ⅰ	2	人間健康学特別研究Ⅱ	2	人間健康学特別研究Ⅲ	2	人間健康学特別研究Ⅳ	2
演習科目小計	2	2	2	2				
単位小計	20	18	4	2				

基礎科目単位計 2

専門科目単位計 34

演習科目単位計 8

単位総計 44

修了要件単位総計 30

履修モデル(1):健康・スポーツモデル

※網掛:必修

※下線:専修免許指定科目

	1年				2年			
	前期		後期		前期		後期	
	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	
基礎科目	人間健康学特講	2						
	基礎科目小計	2		0		0		0
専門科目	健康スポーツ科学特講	2	健康スポーツ生理学特講	2				
	健康スポーツ運動学特講	2	スポーツバイオメカニクス特講	2				
	健康スポーツ心理学特講	2	健康スポーツ栄養学特講	2				
	生涯スポーツ特講	2						
	コーチング学特講	2						
	アダプテッド・スポーツ科学特講	2						
	社会福祉学特講	2						
	専門科目小計	14		6		0		0
演習科目	人間健康学特別研究Ⅰ	2	人間健康学特別研究Ⅱ	2	人間健康学特別研究Ⅲ	2	人間健康学特別研究Ⅳ	2
	演習科目小計	2		2		2		2
	単位小計	18		8		2		2

基礎科目単位計

専門科目単位計

演習科目単位計

単位総計

修了要件単位総計

履修モデル(2):スポーツ教育モデル

※網掛:必修

※下線:専修免許指定科目

	1年				2年			
	前期		後期		前期		後期	
	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	
基礎科目	人間健康学特講	2						
	基礎科目小計	2	0	0	0			
専門科目	健康スポーツ科学特講	2	健康スポーツ生理学特講	2				
	健康スポーツ運動学特講	2						
	生涯スポーツ特講	2	人間形成論特講	2				
	コーチング学特講	2	スポーツ国際開発学特講	2				
	運動教育学特講	2	教師教育学特講	2				
	アダプテッド・スポーツ科学特講	2	アダプテッド・スポーツ指導学特講	2				
	社会福祉学特講	2						
	専門科目小計	14	10	0	0			
演習科目	人間健康学特別研究Ⅰ	2	人間健康学特別研究Ⅱ	2	人間健康学特別研究Ⅲ	2	人間健康学特別研究Ⅳ	2
	演習科目小計	2	2	2	2			
	単位小計	18	12	2	2			

基礎科目単位計

専門科目単位計

演習科目単位計

単位総計

修了要件単位総計

人間健康学研究科 人間健康学専攻 時間割

【前期】

学期	月				火				水				木				金				土									
	年次	履修区分	授業科目	担当教員	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	
1																														
2																														
3					1	選択	健康スポーツ運動学特講	升本	2403	2	選択	健康スポーツ栄養学特講	鬼塚	2403	1	必修	健康スポーツ科学特講	山崎	2403											
4					1	必修	人間健康学特講	専任教員	2403	2	選択	医療福祉実践特講	大塚	2403	1	必修	生涯スポーツ特講	東川	2403											
5					1	必修	アダブテッド・スポーツ科学特講	河野	2403	2	選択	高齢者・障がい者身体活動論特講	山崎	2403	1	選択	スポーツ教育学特講	高田	2403						1	必修	人間健康学特別研究Ⅰ	専任教員	研究室(坂・郷原)	
6					2	選択	スポーツ国際開発学特講	白石	2403	2	選択	人間形成論特講	渡邊	2403	1	選択	社会福祉学特講	工藤	2403							2	必修	人間健康学特別研究Ⅲ	専任教員	研究室(坂・郷原)

【後期】

学期	月				火				水				木				金				土									
	年次	履修区分	授業科目	担当教員	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	
1																														
2																														
3					1	選択	児童・家庭福祉論特講	磯邊	2403	1	選択	スポーツバイオメカニクス特講	房野	2403																
4					1	必修	地域福祉実践特講	大藤	2405	1	必修	健康スポーツ心理学特講	武田	2403	1	選択	体育科教育学特講	前田	2403											
5					1	選択	アダブテッド・スポーツ指導学特講	加地	2403	1	選択	健康スポーツ生理学特講	森木	2403	1	必修	コーチング学特講	松尾	2403						1	必修	人間健康学特別研究Ⅱ	専任教員	研究室(坂・郷原)	
6																										2	必修	人間健康学特別研究Ⅳ	専任教員	研究室(坂・郷原)

人間健康学研究科 人間健康学専攻 時間割

【前期】

学期	月				火				水				木				金				土									
	年次	履修区分	授業科目	担当教員	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	
1																														
2																														
3					1	選択	健康スポーツ運動学特講	升本	2403						1	必修	健康スポーツ科学特講	山崎	2403											
4										1	選択	コーチング学特講	松尾	2403	1	必修	生涯スポーツ特講	東川	2403											
5					1	必修	人間健康学特講	専任教員	2403	1	選択	健康スポーツ心理学特講	武田	2403	1	選択	運動教育学特講	高田	2403						1	必修	人間健康学特別研究Ⅰ	専任教員	研究室(坂・郷原)	
6					2	選択	地域福祉実践特講	鶴岡	2405																					
6					1	必修	アダブテッド・スポーツ科学特講	河野	2403						1	選択	社会福祉学特講	工藤	2403							2	必修	人間健康学特別研究Ⅲ	専任教員	研究室(坂・郷原)

【後期】

学期	月				火				水				木				金				土									
	年次	履修区分	授業科目	担当教員	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	年次	履修区分	授業科目	担当教員	教室	
1																														
2																														
3					1	選択	スポーツ国際開発学特講	白石	2403						1	選択	人間形成論特講	渡邊	2403											
4										1	選択	スポーツバイオメカニクス特講	房野	2403	1	選択	健康スポーツ栄養学特講	鬼塚	2403											
5					1	選択	アダブテッド・スポーツ指導学特講	加地	2403	1	選択	健康スポーツ生理学特講	森木	2403	1	選択	教師教育学特講	前田	2403						1	必修	人間健康学特別研究Ⅱ	専任教員	研究室(坂・郷原)	
6															1	選択	医療福祉実践特講	大塚	2403							2	必修	人間健康学特別研究Ⅳ	専任教員	研究室(坂・郷原)

1. 授業時間

1時限	9:05～10:35
2時限	10:45～12:15
昼休憩	12:15～13:05
3時限	13:05～14:35
4時限	14:45～16:15
5時限	16:25～17:55
6時限	18:05～19:35

人間健康学特講 Human health	工藤隆治、武田守弘、渡邊 満、大藤文夫、 加地信幸、高田康史、房野真也、松尾晋典、 鬼塚純玲、前田一篤、升本絢也、森木吾郎、 白石智也	1年	前期	坂
		2単位	必修	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本研究科の中心的な学問分野である「人間健康学」(障がいの有無、年齢にかかわらず、すべての人の幸福を実現するために、健康に関わる諸問題の解決手法を、医療・福祉、人文・社会等の幅広い分野から探究する総合科学)に対して、「健康・スポーツ」、「スポーツ教育」、及び「福祉/アダプテッド・スポーツ」の3領域から学際的・総合的に探究することを目的に、横断的・網羅的に各分野を教授する内容である。院生は自らが重点的に学ぶ専門領域・分野に加え、他領域・分野への興味関心を誘発し、人間健康学を多角的に追究する新たな教育研究領域・分野を発見することが期待される。
この授業は1年次に配当し、かつ必修科目として位置付ける。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(1)「自ら探求心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	本授業の内容及び進行予定 人間健康学の概念、人間健康学の社会的、歴史的背景	本講義の内容及び進行方法について説明する。 人間健康学の概念、人間健康学の社会的、歴史的背景について解説する。	プレゼンテーションのテーマを検討する。人間健康学の概念、人間健康学の社会的、歴史的背景について理解する。	配布資料
2	健康スポーツ生理学	ヒトの身体の機能と運動・スポーツの関係について解説し、関連する研究論文等に基づいてディスカッションを行わせる。	ヒトの身体の機能と運動・スポーツの関係を理解する。	配布資料
3	人間形成の人間学的な基盤と教育の可能性	人間であることの人間学的基盤を明らかにして、スポーツ教育の人間形成としての可能性を検討する。	人間であることの心的・身体的統合性と間主観的相互交流の意義について理解する。	配布資料
4	アダプテッド・スポーツ(重度・重複障害児者)	アダプテッド・スポーツの専門的知識を理解したうえで、障がい者、特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者を対象とした指導理論を中心に解説する。	アダプテッド・スポーツの専門的知識、および重度・重複障害児者を対象とした指導理論を理解する。	配布資料
5	スポーツバイオメカニクス	動きの巧みさや、効率的な動きを説明するというスポーツバイオメカニクスの目的について説明する。また、測定法及び分析法、実際の研究例について紹介し、それらについてディスカッションを行わせる。	スポーツバイオメカニクスの目的、測定方法、分析方法について理解する。	配布資料
6	スポーツ国際開発学	「スポーツを通じた国際開発」の実践に関して、先行研究及び文献から、その目的と方法、また、成果や課題について解説し、それらに関するディスカッションを行う。	「スポーツを通じた国際開発」の目的、方法、成果及び課題について理解する。	論文及び配布資料
7	地域福祉学	地域社会とコミュニティの変化を整理しつつ、その変化によって生じた地域福祉課題について解説し、課題の協働による解決についてディスカッションを行う。	地域福祉の現状と課題について理解する。	配布資料
8	栄養・食事と健康	人間が成長・発育して生命を維持し、健康な生活活動を営むために必要な栄養・食事について解説する。自身の食生活を振り返り、良い点や改善点についてディスカッションを行う。	健康な生活活動を営むために必要な栄養・食事について理解する。	配布資料
9	体育科教育学	学校教員の養成・採用・研修の各段階における教育活動について概観する。とりわけ、保健体育科と関連させて、実際に行われている取り組みの体験を通して学べる。	体育科教育の取り組みについて理解する。	配布資料
10	スポーツ心理学(メンタルトレーニング)	スポーツ選手の競技力向上を目的としたメンタルトレーニングの理論、実施方法、指導方法について解説する。数種類のメンタルトレーニングプログラムを実践する。ディスカッションを行う。	メンタルトレーニングの理論、実施方法、指導方法について理解する。	配布資料
11	コーチング学	部活動やスポーツクラブに携わるスポーツ指導者が持つべき心構えや視点についてディスカッションを行う。	アスリートの育成・強化の方法とその評価を理解する。	配布資料
12	社会福祉の歴史的起点	本授業では、社会福祉の歴史的起点として、イギリスの『社会保険および関連サービス』(ベヴァリッジ報告)の内容を講義したうえで、社会保障計画について討論する。	社会保障計画の歴史的起点について理解する。	配布資料
13	スポーツ運動学	体育指導やスポーツ教育において、指導者が学習者がよりよく運動スキルを改善するために最適なフィードバック方法を解説する。また、講義内容に基づいてディスカッションを行う。	運動指導で最も最適なフィードバック方法について理解する。	配布資料
14	スポーツ教育学	スポーツを「教える」上で必要な1:スキル、2:心構え、3:準備にテーマを絞って議論を展開する。院生とのディスカッションを中心にスポーツを指導することを掘り下げる。	ディスカッションを通して、自らのスポーツ指導感を見つめ直すことができる。	配布資料
15	院生によるプレゼンテーション授業の振り返りとまとめの討論	院生が深く興味を示した分野・領域についてプレゼンテーションを行う。授業全体を振り返るとともに、院生のプレゼンテーションに対してディスカッションする。	プレゼンテーション、その後のディスカッションに参加する。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
本講義は健康・スポーツの内容、スポーツ教育的内容、福祉/アダプテッド・スポーツ的内容の3つの分野から人間健康学についての理解を深める。人間健康学分野における課題を自ら見出し、幅広い視点を持ち根拠に基づいた理論的な思考・行動ができる能力を獲得する。	1) 各回における理解度 20% 2) 各回におけるディスカッション 30% 3) プレゼンテーション資料作成 10% 4) プレゼンテーション及び質疑応答 40%	各授業の前に、関連する分野の資料や論文を検索し、授業の前に読んでおくこと。また、授業時には各自が検索した資料や論文を持参し、ディスカッション等に利用する。授業時に記録したノートや配布資料を用いて復習すること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

人間健康学特講 Human health	工藤隆治、武田守弘、渡邊 満、加地信幸、高田康史、鶴岡和幸、房野真也、松尾晋典、鬼塚純玲、前田一篤、升本純也、森木吾郎、白石智也	1年	前期	坂
		2単位	必修	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本講義は人間健康学専攻の学問を体系的に理解させるため、学問の体系に従って横断的・網羅的に教授するものであり、専攻院生全員が共通して学習する内容を有する授業である。従ってこの授業は1年次に配当し、かつ必修科目として位置付ける。

具体的には大きく分けて健康・スポーツの内容、スポーツ教育の内容、福祉/アダプテッド・スポーツの内容の3つの分野について、それぞれの分野を専門とする教員によってオムニバス形式による授業を展開する。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(1)「自ら探求心を持ち、人間健康学分野における種々の課題を認識することができ、根拠に基づいた理論的な思考・指導・行動ができる」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	本授業の内容及び進行予定 人間健康学の概念、人間健康学の社会的、歴史的背景	本講義の内容及び進行方法について説明する。 人間健康学の概念、人間健康学の社会的、歴史的背景について解説する。	プレゼンテーションのテーマを検討する。人間健康学の概念、人間健康学の社会的、歴史的背景について理解する。	配布資料
2	健康スポーツ生理学	ヒトの身体の機能と運動・スポーツの関係について解説し、関連する研究論文等に基づいてディスカッションを行わせる。	ヒトの身体の機能と運動・スポーツの関係を理解する。	配布資料
3	人間形成の人間学的な基盤と教育の可能性	人間であることの人間学的基盤を明らかにして、スポーツ教育の人間形成としての可能性を検討する。	人間であることの心的・身体的統合性と間主観的相互交流の意義について理解する。	配布資料
4	アダプテッド・スポーツ (重度・重複障害児者)	アダプテッド・スポーツの専門的知識を理解したうえで、障害者、特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者を対象とした指導理論を中心に解説する。	アダプテッド・スポーツの専門的知識、および重度・重複障害児者を対象とした指導理論を理解する。	配布資料
5	スポーツバイオメカニクス	動きの巧みさや、効率的な動きを説明するというスポーツバイオメカニクスの目的について説明する。また、測定法及び分析法、実際の研究例について紹介し、それらについてディスカッションを行わせる。	スポーツバイオメカニクスの目的、測定方法、分析方法について理解する。	配布資料
6	スポーツ国際開発学	「スポーツを通じた国際開発」の実践に関して、先行研究及び文献から、その目的と方法、また、成果や課題について解説し、それらに関するディスカッションを行う。	「スポーツを通じた国際開発」の目的、方法、成果及び課題について理解する。	論文及び配布資料
7	地域福祉学	地域社会とコミュニティがどのように変化してきたかを整理しつつ、その変化によって生じた課題について解説し、課題を解決するための対応策についてディスカッションを行う。	地域福祉の現状と課題について理解する。	配布資料
8	栄養・食事と健康	人間が成長、発育して生命を維持し、健康な生活活動を営むために必要な栄養・食事について解説する。自身の食生活を振り返り、良い点や改善点についてディスカッションを行う。	健康な生活活動を営むために必要な栄養・食事について理解する。	配布資料
9	教師教育学	学校教員の養成・採用・研修の各段階における教育活動について概観する。とりわけ、保健体育科と関連させて、実際に行われている取り組みの体験を通して学修する。	教師教育の取り組みについて理解する。	配布資料
10	スポーツ心理学(メンタルトレーニング)	スポーツ選手の競技力向上を目的としたメンタルトレーニングの理論、実施方法、指導方法について解説する。数種類のメンタルトレーニングプログラムを実践する。ディスカッションを行う。	メンタルトレーニングの理論、実施方法、指導方法について理解する。	配布資料
11	コーチング学	部活動やスポーツクラブに携わるスポーツ指導者が持つべき心構えや視点についてディスカッションを行う。	アスリートの育成・強化の方法とその評価を理解する。	配布資料
12	社会福祉の歴史的起点	本授業では、社会福祉の歴史的起点として、イギリスの『社会保険および関連サービス』(ベヴァリッジ報告)の内容を講義したうえで、社会保険計画について討論する。	社会保険計画の歴史的起点について理解する。	配布資料
13	スポーツ運動学	体育指導やスポーツ教育において、指導者が学習者がよりよく運動スキルを改善するために最適なフィードバック方法を解説する。また、講義内容に基づいてディスカッションを行う。	運動指導で最も最適なフィードバック方法について理解する。	配布資料
14	運動教育学	スポーツを”教える”上で必要な1:スキル、2:心構え、3:準備にテーマを絞り議論を展開する。院生とのディスカッションを中心にスポーツを指導することを掘り下げる。	ディスカッションを通して、自らのスポーツ指導感を見つめ直すことができる。	配布資料
15	院生によるプレゼンテーション授業の振り返りとまとめの討論	院生が深く興味を示した分野・領域についてプレゼンテーションを行う。授業全体を振り返るとともに、院生のプレゼンテーションに対してディスカッションする。	プレゼンテーション、その後のディスカッションに参加する。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
本講義は健康・スポーツの内容、スポーツ教育の内容、福祉/アダプテッド・スポーツの内容の3つの分野から人間健康学についての理解を深める。人間健康学分野における課題を自ら見出し、幅広い視点を持ち根拠に基づいた理論的な思考・行動ができる能力を獲得する。	1) 各回における理解度 20% 2) 各回におけるディスカッション 30% 3) プレゼンテーション資料作成 10% 4) プレゼンテーション及び質疑応答 40%	各授業の前に、関連する分野の資料や論文を検索し、授業の前に読んでおくこと。また、授業時には各自が検索した資料や論文を持参し、ディスカッション等に利用する。授業時に記録したノートや配布資料を用いて復習すること。自学習の時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

アダプテッド・スポーツ科学特講 Adapted Sport Science	河野 喬	1年	前期	坂
		2単位	必修	講義

1. 授業の目的(ねらい)

アダプテッド・スポーツとは、障がい者や高齢者、子どもあるいは女性等が参加できるように修正された、あるいは新たに創られた運動やスポーツ、レクリエーション全般を指しており、本来は1人1人の発達状況や身体条件に適応させたスポーツという意味である。本授業は、アダプテッド・スポーツを科学的に捉えて、対象となる人々の立場に立ったプログラム開発ができる基礎力を養うことを目的とする。まず、定義や概念、対象となる人々の特性、関連分野との異同について解説を行う。その後、専門図書や学術論文を用いた文献講読、プレゼンテーション及び質疑応答を通して理解を深める。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー(2)「健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	イントロダクション、アダプテッド・スポーツの由来	本授業の概要、到達目標、単位認定方法、進め方、及び履修上の注意について説明を受け、アダプテッド・スポーツの由来について学ぶ。	授業の全体像が把握できる。	配布資料
2	アダプテッド・スポーツの定義	アダプテッド・スポーツの定義(アダプテッド・フィジカル・アクティビティを含む)について、近年の研究動向を併せて確認する。	アダプテッド・スポーツが何かを説明できる。	配布資料
3	アダプテッド・スポーツと関連する概念	アダプテッド・スポーツに関連する概念として、障害の定義(国際生活機能分類等)、障害者の法概念(障害者権利条約等)について確認する。	障害の定義及び障害者の権利の概要を説明できる。	配布資料
4	アダプテッド・スポーツとリハビリテーション及びノーマライゼーション	アダプテッド・スポーツを、リハビリテーション及びノーマライゼーション理念の観点から整理する。	リハビリテーション及びノーマライゼーション理念について説明できる。	配布資料
5	アダプテッド・スポーツとレクリエーション	アダプテッド・スポーツを、レクリエーション(治療的レクリエーションを含む)の観点から整理する。	アダプテッド・スポーツとレクリエーション異同について説明できる。	配布資料
6	アダプテッド・スポーツと特別支援教育	アダプテッド・スポーツを、体育及び特別支援教育の観点から整理する。	特別支援教育におけるアダプテッド・スポーツの意義が説明できる。	配布資料
7	アダプテッド・スポーツとパラスポーツ	アダプテッド・スポーツを、パラスポーツ等の競技スポーツの観点から整理する。	アダプテッド・スポーツとパラスポーツの異同について説明できる。	配布資料
8	アダプテッド・スポーツと高齢者スポーツ	アダプテッド・スポーツを、マスターズ競技等の高齢者スポーツの観点から整理する。	高齢者スポーツにおけるアダプテッド・スポーツの意義が説明できる。	配布資料
9	アダプテッド・スポーツと介護予防・健康づくり	アダプテッド・スポーツを、介護予防・健康づくりの観点から整理する。	介護予防・健康づくりにおけるアダプテッド・スポーツの意義が説明できる。	配布資料
10	アダプテッド・スポーツ科学研究の文献購読(1)身体的健康	アダプテッド・スポーツが 身体的健康に及ぼす影響 に関する文献を購読し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行う。	購読した文献について要約し、 説明 することができる。	論文及び配布資料
11	アダプテッド・スポーツ科学研究の文献購読(2)精神的健康	アダプテッド・スポーツが 精神的健康に及ぼす影響 に関する文献を購読し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行う。	購読した文献について要約し、 説明 することができる。	論文及び配布資料
12	アダプテッド・スポーツ科学研究の文献購読(3)社会的健康	アダプテッド・スポーツが 社会的健康に及ぼす影響 に関する文献を購読し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行う。	購読した文献について要約し、 説明 することができる。	論文及び配布資料
13	アダプテッド・スポーツ科学研究の文献購読(4)インクルージョン	アダプテッド・スポーツ 科学研究においてソーシャル・インクルージョンを扱う 文献を購読し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行う。	購読した文献について要約し、 説明 することができる。	論文及び配布資料
14	アダプテッド・スポーツ科学研究の文献購読(5)用具及び実施体制	アダプテッド・スポーツに関連する 用具開発及び実施体制整備 に関する文献を購読し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行う。	購読した文献について要約し、 説明 することができる。	論文及び配布資料
15	授業の振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、ディスカッションを用いて理解を深める。	本授業の全体像を 要約 し、説明することができる。	論文及び配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
運動やスポーツを実践する上で配慮を必要とする人の視点・立場に立って、科学的な根拠を重視しながらも、工夫や配慮を施した新しい運動やスポーツを創造するために必要となる基礎力及び柔軟性を獲得する。	1) レポート 60% 2) プレゼンテーション 40%	1) アクティブラーニングによる能動的学修を重視し、C-Learningシステム等を用いて予習又は反転学修の資料を提供する。 2) 自学習の総時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

教科書は使用せず、適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

アダプテッド・スポーツ科学特講 Adapted Sport Science	河野 喬	1年	前期	坂
		2単位	必修	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本授業は、アダプテッド・スポーツを科学的に捉えて、対象となる人々の立場に立ったプログラム開発ができる基礎力を養うことを目的とする。まず、定義や概念、対象となる人々の特性、関連分野との異同について解説を行う。その後、専門図書や学術論文を用いた文献講読、プレゼンテーション及び質疑応答を通して理解を深める。なお本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー②「健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する。」に関連した科目である。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	イントロダクション、アダプテッド・スポーツの由来	本授業の概要、到達目標、単位認定方法、進め方、及び履修上の注意について説明を受け、アダプテッド・スポーツの由来について学ぶ。	授業の全体像が把握できる。	配布資料
2	アダプテッド・スポーツの定義	アダプテッド・スポーツの定義(アダプテッド・フィジカル・アクティビティを含む)について、近年の研究動向を併せて確認する。	アダプテッド・スポーツが何かを説明できる。	配布資料
3	アダプテッド・スポーツと関連する概念	アダプテッド・スポーツに関連する概念として、障害の定義(国際生活機能分類等)、障害者の法概念(障害者権利条約等)について確認する。	障害の定義及び障害者の権利の概要を説明できる。	配布資料
4	アダプテッド・スポーツとリハビリテーション及びノーマライゼーション	アダプテッド・スポーツを、リハビリテーション及びノーマライゼーション理念の観点から整理する。	リハビリテーション及びノーマライゼーション理念について説明できる。	配布資料
5	アダプテッド・スポーツとレクリエーション	アダプテッド・スポーツを、レクリエーション(治療的レクリエーションを含む)の観点から整理する。	アダプテッド・スポーツとレクリエーション異同について説明できる。	配布資料
6	アダプテッド・スポーツと特別支援教育	アダプテッド・スポーツを、体育及び特別支援教育の観点から整理する。	特別支援教育におけるアダプテッド・スポーツの意義が説明できる。	配布資料
7	アダプテッド・スポーツとパラスポーツ	アダプテッド・スポーツを、パラスポーツ等の競技スポーツの観点から整理する。	アダプテッド・スポーツとパラスポーツの異同について説明できる。	配布資料
8	アダプテッド・スポーツと高齢者スポーツ	アダプテッド・スポーツを、マスターズ競技等の高齢者スポーツの観点から整理する。	高齢者スポーツにおけるアダプテッド・スポーツの意義が説明できる。	配布資料
9	アダプテッド・スポーツと福祉・介護予防・健康づくり	アダプテッド・スポーツを、福祉・介護予防・健康づくりの観点から整理する。	福祉・健康づくりにおけるアダプテッド・スポーツの意義が説明できる。	配布資料
10	アダプテッド・スポーツ科学研究の文献講読(1)競技スポーツ	アダプテッド・スポーツのうち競技スポーツに関する文献を購読し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行う。	購読した文献について要約し、理解を深めることができる。	論文及び配布資料
11	アダプテッド・スポーツ科学研究の文献講読(2)特別支援教育	アダプテッド・スポーツのうち特別支援教育に関する文献を購読し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行う。	購読した文献について要約し、理解を深めることができる。	論文及び配布資料
12	アダプテッド・スポーツ科学研究の文献講読(3)健康支援	アダプテッド・スポーツのうち健康支援に関する文献を購読し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行う。	購読した文献について要約し、理解を深めることができる。	論文及び配布資料
13	アダプテッド・スポーツ科学研究の文献講読(4)福祉及び社会参加	アダプテッド・スポーツのうち福祉及び社会参加に関する文献を購読し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行う。	購読した文献について要約し、理解を深めることができる。	論文及び配布資料
14	アダプテッド・スポーツ科学研究の文献講読(5)用具及び実施体制	アダプテッド・スポーツのうち用具開発及び実施体制の整備に関する文献を購読し、内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行う。	購読した文献について要約し、理解を深めることができる。	論文及び配布資料
15	授業の振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、ディスカッションを用いて理解を深める。	本授業の全体像を説明することができる。	論文及び配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
運動やスポーツを実践する上で配慮を必要とする人の視点・立場に立って、科学的な根拠を重視しながらも、工夫や配慮を施した新しい運動やスポーツを創造するために必要となる基礎力及び柔軟性を獲得する。	1) レポート 60% 2) プレゼンテーション 40%	1) アクティブラーニングによる能動的学修を重視し、C-Learningシステム等を用いて予習又は反転学修の資料を提供する。 2) 自学習の総時間は60時間以上とする。

6. 教科書・参考図書等

教科書は使用せず、適宜論文及び資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

アダプテッド・スポーツ指導学特講 Adapted Sports instruction	加地 信幸	1年	後期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

アダプテッド・スポーツとは、障がい者や高齢者、子どもあるいは女性等が参加できるように修正された、あるいは新たに創られた運動やスポーツ、レクリエーション全般を指しており、本来は1人1人の発達状況や身体条件に適応させたスポーツという意味である。本授業は、アダプテッド・スポーツ指導者として必要な専門的知識と指導力を身につけ、指導者が対象者の実態に応じてルールや用具等を工夫することでスポーツは可能であることを理解させる。具体的には、アダプテッド・スポーツの定義、歴史および意義を理解したうえで、障がい者、特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者を対象としたアダプテッド・スポーツに係る最新の知見と指導方法を中心に学修し、自ら試行的アダプテッド・スポーツプログラムを実践し、生涯にわたってアダプテッド・スポーツ実践および研究を継続できる力を身につけることを目的とする。なお、本授業は、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシー (3) 「地域社会のスポーツ振興及び健康づくりに寄与し、かつ、国内外を問わず積極的に活動の場を広げる意欲を有する。」に関連している。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーションおよびアダプテッド・スポーツの基礎	アダプテッドスポーツについて専門的知識を身につけていくための基礎的な内容を幅広く理解させたうえで、具体的な授業全体の概要等を解説する。	授業全体の概要およびアダプテッド・スポーツの基礎的な内容を理解する。	配布資料
2	アダプテッド・スポーツの定義、歴史および意義	アダプテッド・スポーツの定義、歴史および意義について解説し、学習者が自分の言葉で説明できる力が身につくよう解説する。	アダプテッド・スポーツについて理解し、自分の言葉で説明できる力を身につける。	配布資料
3	指導者として必要な専門的知識と指導者にふまえてほしいこと	特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者のアダプテッド・スポーツ指導者に必要な専門的知識を理解し、指導者にふまえてほしいことについて解説する。	指導者として必要な専門的知識と指導者にふまえてほしいことを説明できる。	配布資料
4	指導者として必要な専門的知識と支援の意義	特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者のアダプテッド・スポーツ指導者に必要な専門的知識を理解し、支援の意義について解説する。	指導者として必要な専門的知識と支援の意義について説明できる。	配布資料
5	指導者として必要な専門的知識と発達を促す指導の重要性	特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者のアダプテッド・スポーツ指導者に必要な専門的知識を理解し、発達を促す指導の重要性について解説する。	指導者として必要な専門的知識と発達を促す指導の重要性について説明できる。	配布資料
6	アダプテッド・スポーツ指導の現状	特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者のアダプテッド・スポーツ指導の現状を理解するよう解説する。	アダプテッド・スポーツ指導の現状について理解する。	論文および配布資料
7	アダプテッド・スポーツ指導事例の実際と教材開発	地域で定期的に行われている医療的ケアを要する重度・重複障害児者を対象としたアダプテッド・スポーツ指導の事例の実際と教材開発を解説する。	アダプテッド・スポーツ指導事例の実際と教材開発について理解する。	論文および配布資料
8	アダプテッド・スポーツ指導の検討・整理	特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者のアダプテッド・スポーツ指導に係る先行研究を検討・整理し、理解するよう解説する。	先行研究を検討・整理し、理解したことを解説できる。	論文および配布資料
9	アダプテッド・スポーツ指導に係る実践研究課題の設定	アダプテッド・スポーツ指導に係る実践について、明らかにしたい研究内容を検討し、研究題目を設定できるよう解説する。	アダプテッド・スポーツ指導に係る研究題目の設定ができる。	論文および配布資料
10	試行的アダプテッド・スポーツプログラムの考案・計画	学習者が考案・計画した試行的アダプテッド・スポーツプログラムについて検討し、課題を明確にしたうえで指導・助言を行う。	試行的アダプテッド・スポーツプログラムの考案・計画ができる。	論文および配布資料
11	試行的アダプテッド・プログラム実践に係る検討	学習者が考案・計画した試行的アダプテッド・スポーツプログラムについて再度検討し、課題を明確にしたうえで指導・助言を行う。	試行的アダプテッド・プログラム実践に係る検討ができる。	論文および配布資料
12	試行的アダプテッド・プログラムの実施	学習者が考案・計画した試行的アダプテッド・スポーツプログラムを実施し、課題を明確にしたうえで指導・助言を行う。	試行的アダプテッド・プログラムの実施ができる。	配布資料
13	試行的アダプテッド・プログラムに係る検証	学習者が考案・計画し、実施した試行的アダプテッド・スポーツプログラムについて検証し、課題を明確にしたうえで指導・助言を行う。	試行的アダプテッド・プログラムに係る検証ができる。	論文および配布資料
14	試行的アダプテッド・プログラムに係る研究成果発表	学習者が考案・計画し、実施した試行的アダプテッド・スポーツプログラムに係る研究成果を発表し、ディスカッションによる指導・助言を行う。	試行的アダプテッド・プログラムの研究成果を発表し、成果・課題の把握ができる。	配布資料
15	授業の振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、ディスカッションを用いてより専門的なアダプテッド・スポーツについて理解を深めるよう講義する。	授業全体像を振り返り、必要な専門的知識と実践的技能を説明ができる。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
アダプテッド・スポーツ指導者として身につけた高度な専門的知識を基に、対象者の実態に応じてルールや用具等を工夫した指導ができる力を習得する。そのうえで、生涯にわたってアダプテッド・スポーツ実践および研究を継続できる力を身につける。	1) 授業内課題 60% 2) レポート 40%	ディスカッション、プレゼンテーションを活用した双方向の講義を展開する。C-Learningシステム等を用いた予習・復習等を定着させる。自学習の総時間は60時間以上を確保するものとする。

6. 教科書・参考図書等

教科書は使用せず、適宜著書、論文および資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

アダプテッド・スポーツ指導学特講 Adapted Sports instruction	加地 信幸	1年	後期	坂
		2単位	選択	講義

1. 授業の目的(ねらい)

本授業は、アダプテッド・スポーツ指導者として必要な専門的知識と指導力を身につけ、指導者が対象者の実態に応じてルールや用具等を工夫することでスポーツは可能であることを理解させる。具体的には、アダプテッド・スポーツの定義、歴史および意義を理解したうえで、障害者、特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者を対象としたアダプテッド・スポーツに係る最新の知見と指導方法を中心に学修し、自ら試行的アダプテッド・スポーツプログラムを実践し、生涯にわたってアダプテッド・スポーツ実践および研究を継続できる力を身につけることを目的とする。なお、人間健康学研究科のディプロマ・ポリシーのうち、(2)「健康・スポーツ・教育・福祉等を複合させた専門性の高い高度な理論・指導技法を修得し、多様化した社会における人間の健康に対して多角的にアプローチできる実践力を有する」に関連した授業とする。

2. 授業計画

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	オリエンテーションおよびアダプテッド・スポーツの基礎	アダプテッドスポーツについて専門的知識を身につけていくための基礎的な内容を幅広く理解させようとして、具体的な授業全体の概要等を解説する。	授業全体の概要およびアダプテッド・スポーツの基礎的な内容を理解する。	配布資料
2	アダプテッド・スポーツの定義、歴史および意義	アダプテッド・スポーツの定義、歴史および意義について解説し、学習者が自分の言葉で説明できる力が身につくよう解説する。	アダプテッド・スポーツについて理解し、自分の言葉で説明できる力を身につける。	配布資料
3	指導者として必要な専門的知識と指導者にふまえてほしいこと	特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者のアダプテッド・スポーツ指導者に必要な専門的知識を理解し、指導者にふまえてほしいことについて解説する。	指導者として必要な専門的知識と指導者にふまえてほしいことを説明できる。	配布資料
4	指導者として必要な専門的知識と支援の意義	特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者のアダプテッド・スポーツ指導者に必要な専門的知識を理解し、支援の意義について解説する。	指導者として必要な専門的知識と支援の意義について説明できる。	配布資料
5	指導者として必要な専門的知識と発達を促す指導の重要性	特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者のアダプテッド・スポーツ指導者に必要な専門的知識を理解し、発達を促す指導の重要性について解説する。	指導者として必要な専門的知識と発達を促す指導の重要性について説明できる。	配布資料
6	アダプテッド・スポーツ指導の現状	特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者のアダプテッド・スポーツ指導の現状を理解するよう解説する。	アダプテッド・スポーツ指導の現状について理解する。	論文および配布資料
7	アダプテッド・スポーツ指導事例の実際と教材開発	地域で定期的な実施されている医療的ケアを要する重度・重複障害児者を対象としたアダプテッド・スポーツ指導の事例の実際と教材開発を解説する。	アダプテッド・スポーツ指導事例の実際と教材開発について理解する。	論文および配布資料
8	アダプテッド・スポーツ指導の検討・整理	特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者のアダプテッド・スポーツ指導に係る先行研究を検討・整理し、理解するよう解説する。	先行研究を検討・整理し、理解したことを解説できる。	論文および配布資料
9	アダプテッド・スポーツ指導に係る実践研究課題の設定	アダプテッド・スポーツ指導に係る実践について、明らかにしたい研究内容を検討し、研究題目を設定できるよう解説する。	アダプテッド・スポーツ指導に係る研究題目の設定ができる。	論文および配布資料
10	試行的アダプテッド・スポーツプログラムの考案・計画	学習者が考案・計画した試行的アダプテッド・スポーツプログラムについて検討し、課題を明確にしたうえで指導・助言を行う。	試行的アダプテッド・スポーツプログラムの考案・計画ができる。	論文および配布資料
11	試行的アダプテッド・プログラム実践に係る検討	学習者が考案・計画した試行的アダプテッド・スポーツプログラムについて再度検討し、課題を明確にしたうえで指導・助言を行う。	試行的アダプテッド・プログラム実践に係る検討ができる。	論文および配布資料
12	試行的アダプテッド・プログラムの実施	学習者が考案・計画した試行的アダプテッド・スポーツプログラムを実施し、課題を明確にしたうえで指導・助言を行う。	試行的アダプテッド・プログラムの実施ができる。	配布資料
13	試行的アダプテッド・プログラムに係る検証	学習者が考案・計画し、実施した試行的アダプテッド・スポーツプログラムについて検証し、課題を明確にしたうえで指導・助言を行う。	試行的アダプテッド・プログラムに係る検証ができる。	論文および配布資料
14	試行的アダプテッド・プログラムに係る研究成果発表	学習者が考案・計画し、実施した試行的アダプテッド・スポーツプログラムに係る研究成果を発表し、ディスカッションによる指導・助言を行う。	試行的アダプテッド・プログラムの研究成果を発表し、成果・課題の把握ができる。	配布資料
15	授業の振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、ディスカッションを用いてより専門的なアダプテッド・スポーツについて理解を深めるよう講義する。	授業全体像を振り返り、必要な専門的知識と実践的技能を説明ができる。	配布資料
16	試験	なし		

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
アダプテッド・スポーツ指導者として身につけた高度な専門的知識を基に、対象者の実態に応じてルールや用具等を工夫した指導ができる力を習得する。そのうえで、生涯にわたってアダプテッド・スポーツ実践および研究を継続できる力を身につける。	1) 授業内課題 60% 2) レポート 40%	ディスカッション、プレゼンテーションを活用した双方向の講義を展開する。C-Learningシステム等を用いた予習・復習等を定着させる。自学習の総時間は60時間以上を確保するものとする。

6. 教科書・参考図書等

教科書は使用せず、適宜著書、論文および資料を配布する。

7. その他(履修の要件等)

特になし

人間健康学研究科人間健康学専攻
入学から修了までのスケジュール

学年	時期	事項	備考	
1年	4月	履修ガイダンス	本研究科の教育課程の構成、各授業科目の概要及び履修の流れ、修士論文作成の概要等の説明、学年暦、履修方法、履修要件についての説明	
		選択する人間健康学領域の選択 指導教員の決定(主指導教員1名・副指導教員2名)	入学願書とともに提出される希望研究テーマ、研究計画要旨に基づき、面談を行い、教員・院生双方の合意のもと指導教員等を決定する。研究科委員会で主指導教員・副指導教員を審議の上、決定し、院生に通知	
		履修登録・前期授業開始		
			研究計画の立案	主指導教員・副指導教員による指導・確認
	9月	後期授業開始		
		研究計画の決定	主指導教員・副指導教員による指導・確認	
	2月	修士論文審査委員会の編成	指導担当教員以外の専任教員1名を主査、さらに主査以外の専任教員(指導担当教員を含む)2名を副査とする修士論文審査委員会を編成。	
	2月下旬 ～3月	修士論文研究テーマ発表会	研究テーマ発表会日程を調整・通知(研究科長)	
3月	倫理審査申請書類の作成・提出(研究上必要な場合)	倫理審査委員会での審査		
2年	4月	履修ガイダンス		
		履修登録・前期授業開始		
		倫理審査の承認後、データ収集開始	主指導教員・副指導教員による指導・確認	
			データ分析	主指導教員・副指導教員による指導・確認
	7月	修士論文中間発表会	中間発表会日程を調整・通知(研究科長)	
	9月	後期授業開始		
	12月	修士論文の提出準備	主指導教員・副指導教員による指導・確認	
	1月	修士論文の提出(末日締切)	主指導教員・副指導教員による指導・確認	
	2月初旬	学位授与申請書提出	学位授与申請書に修士論文、その他の添付書類を添付し、研究科長を経て学長に提出	
	2月下旬	修士論文最終発表会	最終発表会日程を調整・通知(研究科長)	
		修士論文審査委員会による論文審査及び最終試験	修士論文審査委員会による協議、その結果を研究科委員会に報告	
		研究科委員会による修士課程修了の可否判定	研究科委員会において、修士論文の審査及び口頭試験の判定結果、ならびに単位取得状況により修士課程修了の可否判定後、学長に報告	
	3月	学長による学位授与判定	研究科委員会からの報告に基づき、学長による学位授与判定	

人間健康学研究科人間健康学専攻
入学から修了までのスケジュール

学年	時期	事項	備考	
1年	4月	履修ガイダンス	本研究科の教育課程の構成、各授業科目の概要及び履修の流れ、修士論文作成の概要等の説明、学年暦、履修方法、履修要件についての説明	
		選択する人間健康学領域の選択 指導教員の決定(主指導教員1名・副指導教員1名)	入学願書とともに提出される希望研究テーマ、研究計画要旨に基づき、面談を行い、教員・院生双方の合意のもと指導教員等を決定する。研究科委員会で主指導教員・副指導教員を審議の上、決定し、院生に通知	
		履修登録・前期授業開始		
			研究計画の立案	主指導教員・副指導教員による指導・確認
	9月	後期授業開始		
		研究計画の決定	主指導教員・副指導教員による指導・確認	
	2月	修士論文審査委員会の編成	主指導教員を主査・副指導教員を副査とする修士論文審査委員会を編成	
	2月下旬 ～3月	修士論文研究テーマ発表会	研究テーマ発表会日程を調整・通知(研究科長)	
3月	倫理審査申請書類の作成・提出(研究上必要な場合)	倫理審査委員会での審査		
2年	4月	履修ガイダンス		
		履修登録・前期授業開始		
		倫理審査の承認後、データ収集開始	主指導教員・副指導教員による指導・確認	
			データ分析	主指導教員・副指導教員による指導・確認
	7月	修士論文中間発表会	中間発表会日程を調整・通知(研究科長)	
	9月	後期授業開始		
	12月	修士論文の提出準備	主指導教員・副指導教員による指導・確認	
	1月	修士論文の提出(末日締切)	主指導教員・副指導教員による指導・確認	
	2月初旬	学位授与申請書提出	学位授与申請書に修士論文、その他の添付書類を添付し、研究科長を経て学長に提出	
	2月下旬	修士論文最終発表会	最終発表会日程を調整・通知(研究科長)	
		修士論文審査委員会による論文審査及び最終試験	修士論文審査委員会による協議、その結果を研究科委員会に報告	
		研究科委員会による修士課程修了の可否判定	研究科委員会において、修士論文の審査及び口頭試験の判定結果、ならびに単位取得状況により修士課程修了の可否判定後、学長に報告	
	3月	学長による学位授与判定	研究科委員会からの報告に基づき、学長による学位授与判定	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人	0人	1人	0人	0人	2人	3人	6人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博 士	0人	1人	2人	0人	0人	0人	0人	3人	
	修 士	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	2人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講 師	博 士	0人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	
	修 士	0人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助 教	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	博 士	0人	3人	3人	0人	0人	2人	3人	11人	
	修 士	0人	2人	1人	1人	1人	0人	0人	5人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

定年を超えて採用する教員について

(人間健康学研究科人間健康学専攻(M))

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	採用根拠
	専	教授	<令和4年4月>		広島文化学園定年規程第2条第2項(定年)及び広島文化学園定年規程の特例に関する取扱細則第2条(定年の特例)理事会(R3.2.10開催)にて承認
	専	教授	<令和4年4月>		広島文化学園定年規程第2条第2項(定年)及び広島文化学園定年規程の特例に関する取扱細則第2条(定年の特例)理事会(R3.2.10開催)にて承認
	専	教授	<令和4年4月>		広島文化学園定年規程第2条第2項(定年)及び広島文化学園定年規程の特例に関する取扱細則第2条(定年の特例)理事会(R3.2.10開催)にて承認
	専	教授	<令和4年4月>		広島文化学園定年規程第2条第2項(定年)及び広島文化学園定年規程の特例に関する取扱細則第2条(定年の特例)理事会(R3.2.10開催)にて承認

2021年6月7日

広島文化学園大学
人間健康学部在学学生各位

広島文化学園大学 学長
人間健康学研究科設置準備室室長
坂越 正樹
人間健康学研究科設置準備室副室長
武田 守弘

広島文化学園大学「大学院人間健康学研究科(仮称)」
設置構想についての調査
実施のお願い

大学院人間健康学研究科は、人間健康学部で学んだ幅広い知識、実践力を深化させるために設置するものです。以下の大学院に関する説明文章を読んで、アンケートに回答するようお願いいたします。

以上



「大学院」について

広島文化学園大学大学院
人間健康学研究科
(仮称設置申請中)

はじめに



大学院とは？

みなさん、本日は「大学院」について考えて頂きたく、この資料を作成しました。

皆さんをはじめ、多くの方々にとって「大学」は身近な存在です。今や高校生の半数以上の53%(R1)が進学します。

その一方で、「大学院」はどうでしょう？正直なところ、何も知らない、聞いたことがないという人が多いと思います。

データ的には大学卒業者の11.0%が、大学院に進学しています(H28)。(ちなみに本学部の教員は、全員大学院に進学しています。)

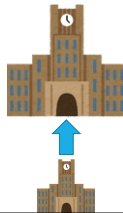
興味ある人もない人も、少しだけ「大学院」に触れてみてください。

大学院の主な種類

1. 学部を持つ大学院 ⇒今回設置するHBG大学院はこのパターン

学部を持つ大学院とは、基礎となる学部がある大学院のことです。大学の学部、いわゆる学士課程で得た知識を発展・応用させながら、さらに高度で専門的な研究や教育を行います。

- 2. 独立研究科
- 3. 大学院大学
- 4. 専門職大学院



修士課程と博士課程の違い

修士課程とは ⇒今回設置するHBG大学院はこのパターン

修士課程の目的は、専攻する分野の教育・研究能力を磨き、専門性が求められる職業で力を発揮する人材を育成することです。標準の修業年限は2年で、修了すると「修士」の学位を取得できます。

博士課程とは

博士課程の目的は、自立した研究者として研究活動を行うことと、高度な専門業務に就くために必要とされる修士以上に卓越した研究能力と、その基礎を築く学識を身に付けることです。標準の修業年限は5年(修士2年+博士3年)で、修了すると「博士」の学位が授与されます。

大学院進学の特典



1. 高い専門性が身に付く

大学の学部では知識を網羅する授業が行われることが一般的です。一方、大学院は研究テーマを絞って、集中的に思考を深められる場所です。その分、確実に高い専門性を身に付けることができます。

2. 資格が取れ、就職の選択肢が増える

資格や高度な専門知識を身に付ければ、おのずと就職の選択肢が増えます。

取得可能な資格：中・高保健体育専修免許、中級・上級障がい者スポーツ指導員、日本スポーツ協会コーチ資格、NSCAトレーナー資格(CSCS,CPT)、スポーツメンタルトレーナー指導士など

3. 初任給が高い

大卒よりも大学院卒のほうが、初任給をたくさんもらえる傾向があります。厚生労働省のデータによると、大学院修士課程修了の初任給は23万3400円で、大学卒は20万6100円と、2万7300円の差があります。大学院修了のほうが年齢が高いのと、専門的な知識や技術を提供することへの報酬が上乗せされることが理由と考えられます。

大学院進学の特典



4. 多様な院生(仲間)とともに過ごす

社会人入試があり、元プロ選手などのアスリートや、福祉現場で働く方々、現職の教員などが院生となることもあり、職歴や年齢の異なる方々と日々交流しながら、授業を受けることになり。生きた学びを経験できます。

5. 学会などで他大学院の院生との交流が増える

6. 大学施設を使用しアスリート活動が継続できる



大学院進学の特長 (教員-1)



1. 教員採用試験に2回チャレンジ出来る

大学院の1年目に教員採用試験にチャレンジでき、合格すれば大学院修了後まで採用を待っていただけます。つまり、1年目と2年目の2回チャレンジできます。

2. 専修免許 (中・高、保健体育) が取得できる

学部で一種免許を獲得した人は、大学院で上位の専修免許を取得することができます。公立学校では、一種免許も専修免許も待遇や昇給にほとんど影響はありませんが、教頭職以上に就く場合には専修免許が必要になります。また、一部の私立学校では、採用の際に専修免許が必須条件である場合もあります。

大学院進学の特長 (教員-2)



3. 小学校二種免許が取得できる ⇒ HBG大学院の特長

学部で一種免許を獲得した人は、学部で行われている通信教育を受講することで大学院在学期間に小学校二種免許が取得できます。

4. 教員免許のない人でも教員免許を取得できる ⇒ HBG大学院の特長

通常の2年間に1年追加することで、学部で教員免許を獲得しなかった人でも、教員免許を獲得するチャンスがあります。大学院在学期間に、学部で開講されている授業を受けることができるので、中高保健体育一種免許に加えて、専修免許も獲得できます。長期履修制度が適用されるため、学費は2年分で追加はありません。

大学院進学の特長 (教員-3)



1. 社会人デビューが遅れる

大卒で就職した人に比べると、大学院卒の人が社会人になるのは早くても2年後。大学院で得た知識や経験は得難いものですが、社会人としてのスタートは遅れます。

2. 学費がかかる

大学院で学ぶためには、学費が必要です。ただ長期履修制度 (4年間まで在学可能) を利用すると2年分のみ必要で、それ以降は不要です。また大学と同様に、必要に応じて奨学金を利用できます。

3. 勉強がハード

研究や実験に追われるハードな日々を送る覚悟が必要です。レポートやプレゼンの準備、論文作成のほか、学会で発表をすることもあり、努力が必要です。

本大学院の概要 (予定)



開設時期: 2022 (令和4) 年 4 月

開設場所: 広島 坂キャンパス・呉 郷原キャンパス

研究科名: 人間健康学研究科

専攻名: 人間健康学専攻

学位名: 修士 (健康学)

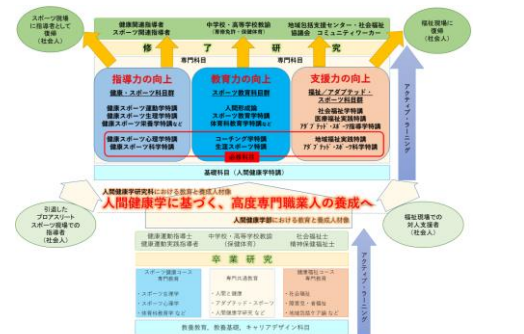
入学定員: 5 人 (収容定員10人)

学生納付金: 95万円

(授業料70万円、実験実習費5万円、施設維持費20万円、予定)

(本学在学は入学金25万円を免除、予定)

本大学院のイメージ図 (予定)



本大学院での授業科目 (予定)



年度	1年			2年		
	前期	後期	単位	前期	後期	単位
必修科目	人間健康学特講 2					
専攻科目	健康スポーツ科学特講 2	健康スポーツ心理学特講 2		健康スポーツ実習特講 2		
	健康スポーツ運動学特講 2	スポーツ心理学のメカニクス特講 2				
		健康スポーツ生化学特講 2				
	生体力学特講 2	トレーニング学特講 2		人間形成論特講 2		
	スポーツ教育学特講 2	体育科教育学特講 2		スポーツ人間関係学特講 2		
	アダプティブ・スポーツ科学特講 2	アダプティブ・スポーツ実践学特講 2				
	社会福祉学特講 2	地域福祉実践特講 2		医療福祉実践特講 2		
		児童・家庭福祉論特講 2		高齢者・障害者身体活動論特講 2		

本大学院が養成する人材像と進路①

健康・スポーツ

運動・健康・福祉に関する種々の研究成果に基づいて、幅広い年代層に対して適切な運動方法を選択でき、積極的な健康づくりを支援できる能力を有する専門的人材を養成します。また、現場での活動を通して修得した課題解決能力を基に、健常者のトップアスリートから障がい者のアスリートまでを対象とした、専門性の高い理論的なスポーツ指導方法を確立するなど、高度な専門知識に基づいた指導力を有するスポーツ指導者を養成します。

予想される進路

- ・医療機関の健康運動指導者
- ・競技スポーツチームにおけるアスリート
- ・競技スポーツチーム及び障がい者アスリートを支える指導者・スタッフ
(スキル面、メンタル面、フィジカル面、動作及び運動技術面、栄養面を支援する人材)



本大学院が養成する人材像と進路②

スポーツ教育

教育・運動・健康に関する研究を通して得られた知見を活かし、多様化する社会に柔軟に対応するとともに、アダプテッド・スポーツを含めた教材開発や、課題探求型の学びを展開できる高度な実践的指導力を有する教員等の人材を養成します。

予想される進路

- ・専修免許状を有する中学校保健体育科教諭
- ・専修免許状を有する高等学校保健体育科教諭
- ・地域社会体育指導者
- ・学校部活動指導員



本大学院が養成する人材像と進路③

福祉/アダプテッドスポーツ

アダプテッド・スポーツや福祉の理論と実践を用いて、病弱者や高齢者、障害者、子どもたちを含む、多様な対象者に適切な支援方法を選択でき、地域社会における包括的な健康をサポートできる支援力を有する専門的人材を養成します。

予想される進路

- ・社会福祉協議会のコミュニティワーカー
- ・地域包括支援センターのソーシャルワーカー
- ・特別養護老人ホーム、デイサービスセンター等の健康運動指導員
- ・児童厚生施設、放課後等デイサービス等のスポーツ指導員 等



本学大学院の出来る時期

令和4年4月からスタート（予定）

令和4年3月 学部の1期生が卒業します。

大学院はそれに合わせて4月からスタートする予定です。

現在、急ピッチで準備しています。

現在の4年生から、大学院に進学が可能です。

みなさんの進路の一つに加えて頂ければ幸いです。

この後、「アンケート」から回答をお願いします。



広島文化学園大学 大学院 人間健康学研究科（仮称）に関する調査

1. 大学院に関する説明資料を読みましたか？
(1) 読んだ (2) 読んでいない(→アンケートに回答せず、資料をまずお読みください)
2. あなたの学年について 該当する番号を選んでください。
(1) 1学年 (2) 2学年 (3) 3学年 (4) 4学年
3. あなたのコースについて 該当する番号を選んでください。
(1) スポーツ健康コース(1年生は希望を含む) (2) 健康福祉コース(1年生は希望を含む)
4. 先ほどの説明資料を読み、大学院のことを理解できましたか？次の中から1つ選択してください。
(1) 非常に理解できた (2) 理解できた (3) あまり理解できなかった (4) ほとんど理解できなかった
5. 広島文化学園大学人間健康学部が設置する大学院に興味・関心がありますか。次の中から1つ選択してください。
(1) 非常にある (2) 少しある (3) あまりない (4) ほとんどない
6. 本学の大学院を受験したいと思いますか。どちらかを選択してください。
(1) 受験したい (2) 受験したくない
→質問 7～11へ →質問 12～14へ
7. 本学の大学院を受験したい気持ちはどの程度ですか？次の中から1つ選択してください。
(1) 是非受験したい (2) 受験したい (3) 進路(教員採用、就職など)が決まらなければ受験したい
8. 専門的知識の向上として、どのような学問を専門的に学びたいですか？ 該当するものをお選びください（複数選択可）。
(1) 健康スポーツ科学 (2) 健康スポーツ心理学 (3) 健康スポーツ栄養学
(4) 健康スポーツ運動学 (5) スポーツバイオメカニクス (6) 健康スポーツ生理学
(7) 生涯スポーツ (8) コーチング学 (9) スポーツ教育学 (10) 体育科教育学
(11) スポーツ国際開発学 (12) アダプテッド・スポーツ科学 (13) 社会福祉学 (14) すべて
9. 実践的知識の学修として、どのような領域の実践的知識を獲得したいですか？
(1) 健康・スポーツ領域 (2) スポーツ教育領域 (3) 福祉/アダプテッド・スポーツ領域
(4) すべて
10. 入学した場合、どのようなことを期待しますか。
(1) 専門的知識の向上 (2) 実践的知識の学修 (3) 資格の取得
(4) 専修免許状の取得 (5) 教員採用試験対策 (6) その他
11. どのような条件が整えば、入学してみようと思いますか（複数回答可）。

- (1) 家族の理解と協力 (2) 経済事情 (3) 自分の目的の明確化 (4) 能力への不安解消
(5) 交通の利便 (6) その他 (_____)

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

12. 質問6で(2)受験したくないと回答した方にお聞きします。

現時点で、大学卒業後のあなたの進路は決まっていますか？どちらかを選択してください。

- (1) 決まっている (2) 決まっていない

13. どのような条件を整えば、入学を検討してみようと思いますか。(複数回答可)

- (1) 自分の勉学に対する意欲 (2) 経済事情 (3) 自分の目的の明確化
(4) 家族の理解と協力 (5) 能力への不安解消
(6) 交通の利便 (7) その他 (_____)

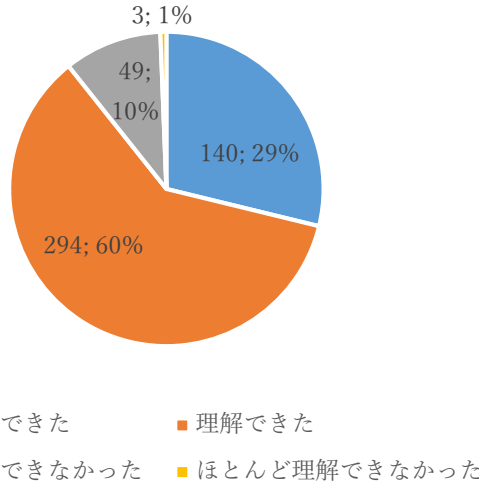
14. 本学の大学院に入学者を増やすためには、どんなことが必要だと思いますか？自由に記述してください。

(_____)

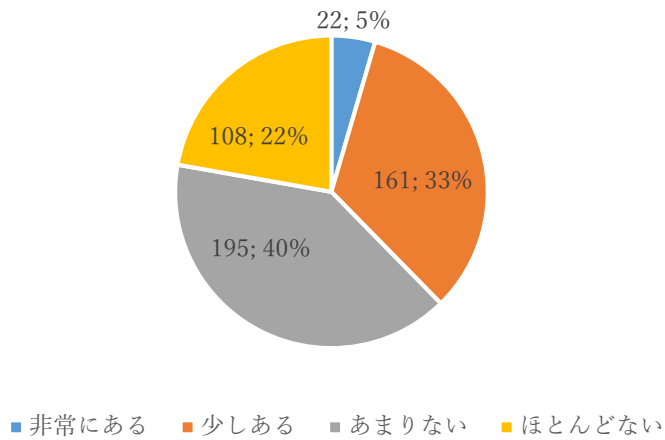
アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

2. 本学人間健康学部スポーツ健康福祉学科の在学生(4年生から1年生)を対象としたアンケート調査

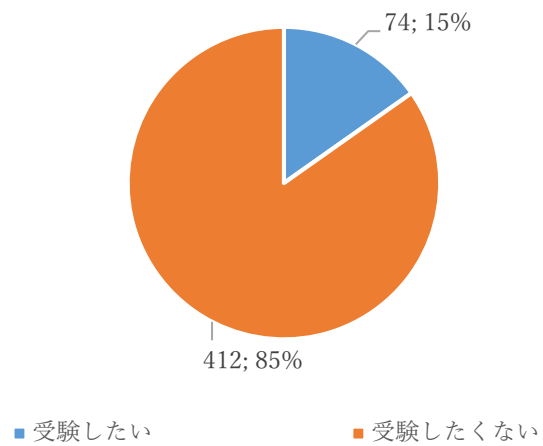
先ほどの説明資料を読み、大学院のことを理解できましたか？



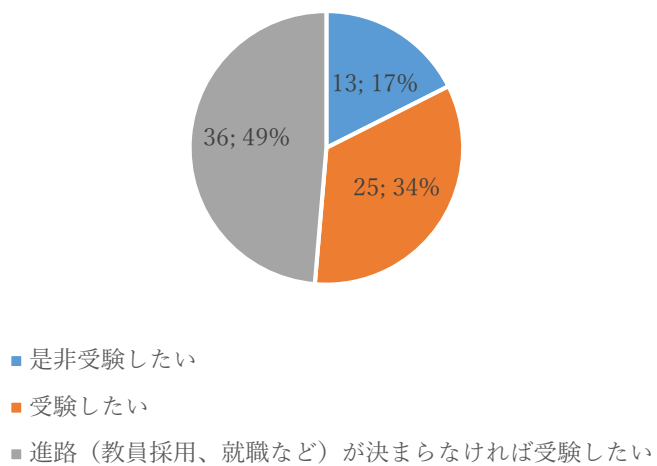
広島文化学園大学人間健康学部が設置する大学院に興味・関心がありますか。



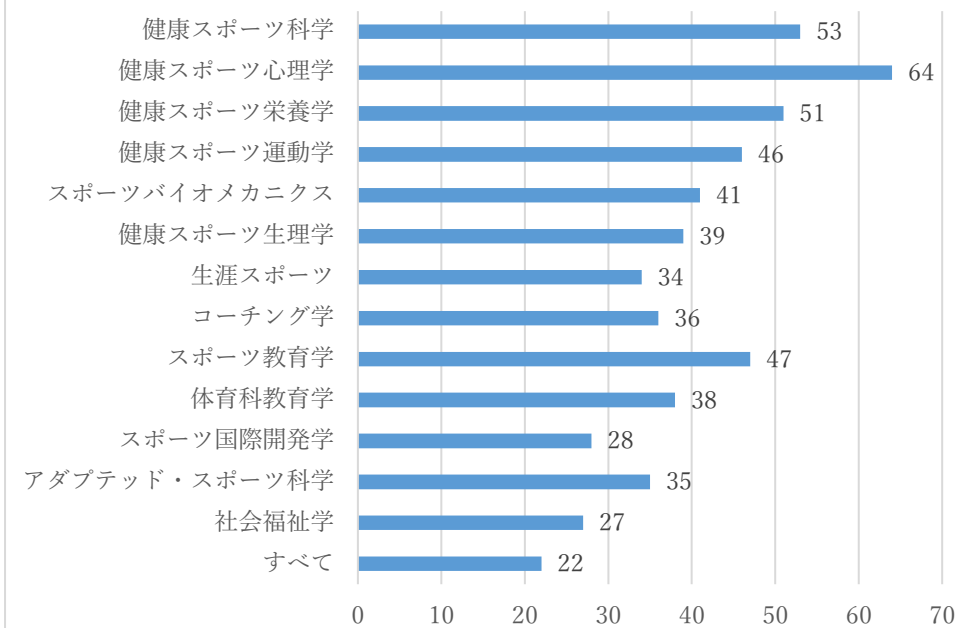
本学の大学院を受験したいと思いますか。



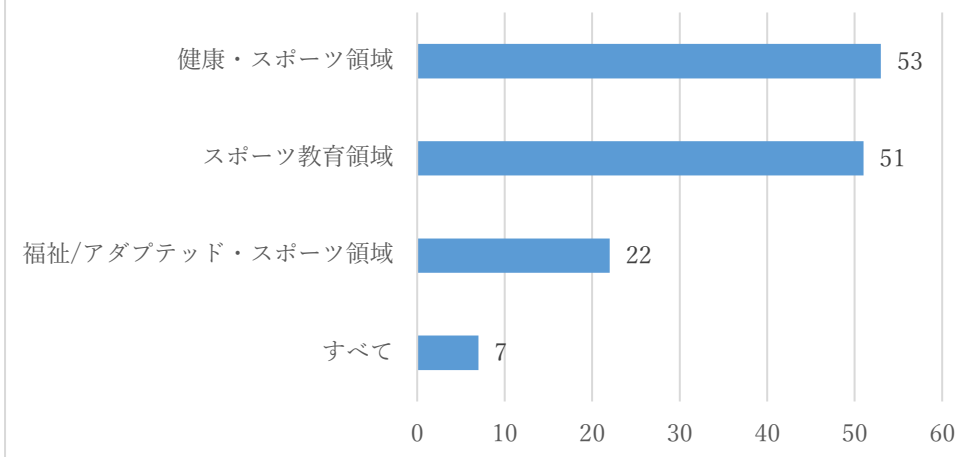
本学の大学院を受験したい気持ちはどの程度ですか？

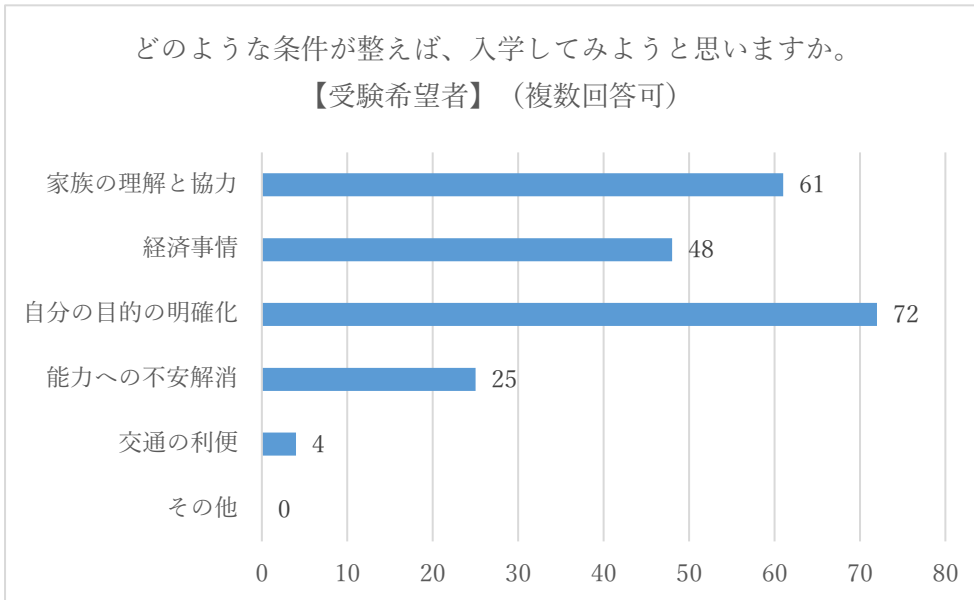
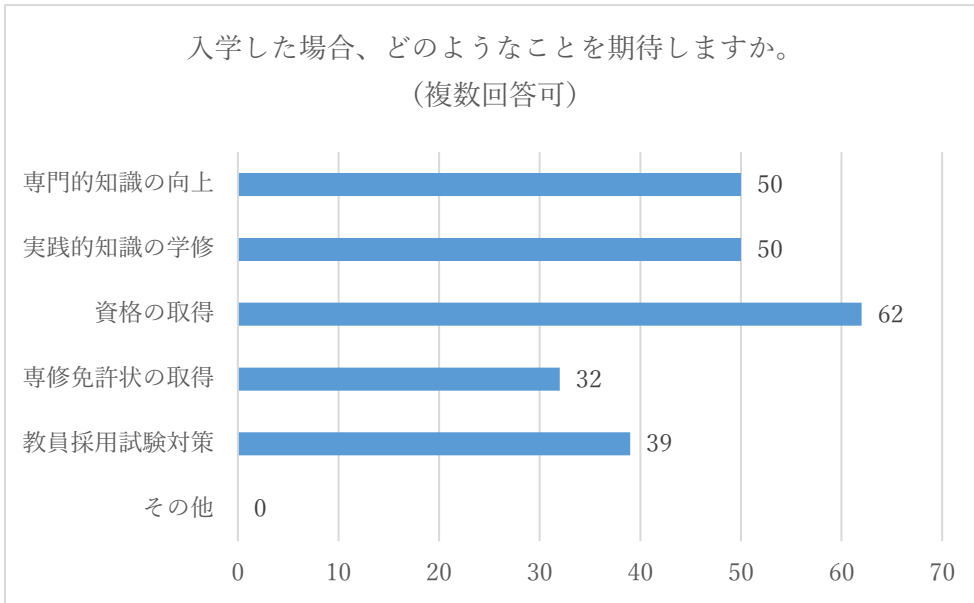


専門的知識の向上として、どのような学問を専門的に
学びたいですか？（複数回答可）



実践的知識の学修として、どのような領域の実践的知識を
獲得したいですか？（複数回答可）





どのような条件が整えば、入学してみようと思いますか。

【非受験希望者】（複数回答可）

